

高坂 宏一教授 略歴及び主要業績

略 歴

生 年	1952年
学 歴	1976年 東京大学医学部保健学科卒業 1978年 東京大学大学院医学系研究科博士前期課程修了 1981年 東京大学大学院医学系研究科博士後期課程単位取得済退学
職 歴	1981年 杏林大学保健学部保健学科 助手 1985年 杏林大学保健学部保健学科 講師 1988年 杏林大学保健学部保健学科 助教授 1990年 杏林大学保健学部保健学科 教授 2001年 杏林大学社会科学部（現：総合政策学部）教授
学 位	保健学博士（東京大学）
学内で担当した 主な専門科目	
（学 部）	人類生態学、人口学、国際保健学
（大学院）	人類生態学特論
所 属 学 会	日本民族衛生学会、日本人口学会、日本オセアニア学会、生態人類学会、人類働態学会他
学外委員履歴	日本私立大学協会教育学術充実協議会委員、日本高等教育評価機構 評価員、大学基準協会評価委員、日本民族衛生学会会長
受 賞 歴	1993年 千嘉代子賞

研究業績

■学術論文

- ・「人口流出と世帯構成の変動—三河湾にある一島嶼の人口について—」民族衛生、1980、46(3)：139—148.
- ・Daily travel of Sundanese peasants in Indonesia : Its relevance to work time, Journal of Human Ergology, 1984, 13(1)：79—82.
- ・Daily travel of Sundanese mothers in an agricultural community of West Java: Evidence of restriction by childcare. Journal of Human Ergology, 1988, 15(2)：139—145.
- ・Postpartum amenorrhea, waiting time to conception, and prevalence of pregnancy of women in a Sundanese agricultural community. Human Biology, 1986, 58(6)：933—944.
- ・「西ジャワ・スンダ農村婦人の出産後の無月経期間」東南アジア研究、1988、26(1)：55—63
- ・「近年の出生力と乳児死亡率の動態に関する研究—1984,1998,1991年のWorld Population Data Sheetの分析—」民族衛生、1993、59(3)：136—143.
- ・「韓国の出生順位別出生比の年次変化に関する研究：1970～1998年」民族衛生、2002、68(1)：10—18.
- ・「日本とスウェーデンの人口高齢化—異なる歴史過程から見えてくるもの」比較文化研究、2007、11：37—46.
- ・「アンデス高地におけるスウォドリリングについての試論—文化的適応の視点から—」杏林社会科学 研究、2009、24(4)：57—67.

■総説

- ・「人口再生産と少子化」(巻頭言) 民族衛生、2006、72(6)：213—214.
- ・「人口の高齢化と人口支持力をめぐる雑感」(巻頭言) 民族衛生、2008、74(1)：213—214.
- ・「インドネシア・スンダ農村の変貌」(巻頭言) 民族衛生、2015、81(2)：43—44.

■著書

- ・『衛生学・公衆衛生学』医歯薬出版、1999。(共著)
- ・『人類生態学』東京大学出版会、2002。(共著)
- ・『衛生学・公衆衛生学』(第2版) 医歯薬出版会、2005。(共著)
- ・『人類生態学』(第2版) 東京大学出版会、2012。(共著)
- ・『健康とは何か』勝目卓朗編、新興医学出版社、1987。(分担、pp. 123—38、「人口現象からみた健康—人口増加と出生力について」)

- ・Health Ecology in Indonesia. Suzuki, S. (ed.), Gyosei Corporation, 1988. (partial contribution, pp. 165-188, Fertility and birth interval of women in a Sundanese agricultural community.)
- ・The 9th International Menopause Society World Congress on Menopause, Aso, T., Yanaihara, T., Taketani, Y., Suda, T., Tanaka, H., Maehara, S. (eds.), Monduzzi Editore, 1999. (partial contribution, pp.564-567, An estimation of age at menopause in Sundanese women of Indonesia.)
- ・『人類学—ヒトの科学—』富田守編、垣内出版、1989。(分担、pp. 401-405、「世界各地に生きる人々：稲作を中心とするジャワ島のスンダ農民」)
- ・『食と栄養の生態学』鈴木継美編、放送大学教育振興会、1991。(分担、pp.117-128、「ケース・スタディ(4)—ジャガイモ」)
- ・『貿易・開発と環境問題』青木健、馬田啓一編、文眞堂、2008。(分担、pp. 42-54、「環境と人口問題」)
- ・『死の儀法—在宅死に見る葬の礼節・死生観』近藤功行、小松和彦編、ミネルヴァ書房、2008。(分担、pp.181-190、「人口高齢化の諸側面」)

■報告書

- ・『インドネシア人類生態学調査集成』鈴木庄亮、五十嵐忠孝編、日産科学振興財団、1984。(分担、pp.43-48、「スンダ農村集落の人口学的観察—特に出生力について」)
- ・『国際医療協力の技術移転に関する研究』(国際医療協力研究委託事業総合報告書)、我妻亮編、1993。(分担、pp.103-145、「途上国の文化と社会的背景から見た臨床医療協力の課題と留意点」)
- ・『東南アジアにおける差別出生力構造に関する比較人口生態学研究』1999。科研費(1996-1998)研究成果実績報告書。
- ・『日本・韓国・インドネシアにおける出生力低下メカニズムに関する比較人口生態学研究』2001。科研費(2000-2002)研究成果報告書。

ほか

以上